

平成27年度 新潟市音楽部 活動報告

部長 三浦 美也子

1 研究主題

聴いて 感じて 考えて 音楽を楽しむ子ども

2 研究の概要

研究主題の『聴いて 感じて 考えて』とは、「音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断していく姿」である。また、『音楽を楽しむ子ども』とは、「思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする姿」である。

今年度は、昨年度の成果と課題を受け、目指す子どもの姿に迫るために、以下の3つの事柄に重点をおいて研究を進めた。

- (1) 指導と評価の一体化を図る。
- (2) [共通事項]の位置付けを明確にした題材構成をする。
- (3) 音楽科に即した言語活動の充実を図る。



3 研究の実際

新潟市を4つのブロックに分け、授業研究を柱としたブロック研修と全体研修の二つの柱を立てて研修を進めてきた。ブロック研修では、代表による研究授業と全会員が指導案を書き、実践する一人一授業研究を行った。今年度も昨年度に引き続き全員が「音楽づくり」の実践を行った。

(1) 指導と評価の一体化を図った実践例(5学年)

題材名：日本の音階を使って旋律をつくろう

[共通事項] ア(イ)反復，問いと答え，変化

教材曲：(参)「うさぎ」「さくらさくら」

- まとまりのある旋律をつくるために、2色の旋律シートを使用し、音楽の仕組みが視覚化される手立てを講じた。
- 2色のシートによって音楽の仕組みが一目で分かり、それらを生かして音楽を構成することができた。また、シートの並べ方や記述から工夫点を評価しやすくなった。

(2) [共通事項]の位置付けを明確にした題材を構成した実践例(5学年)

題材名：リズムを選んでアンサンブル

[共通事項] ア(イ)反復，変化

教材曲：(鑑)「三人の兄弟」

- 鑑賞と音楽づくりの活動を関連付けた題材構成
- 鑑賞を通して聴き取る音楽の仕組みを「反復」「変化」に絞ったことで、子どもが自ら音楽の仕組みのよさや面白さに気付き、自分たちのリズムアンサンブルにどのように取り入れたらよいかを考えることができた。

(3) 音楽科に即した言語活動の充実を図った実践例(3学年)

題材名：ラドレの音で旋律づくり

[共通事項] ア(ア)リズム，旋律(イ)反復，問いと答え，変化

- 面白い旋律とは、どのようなものかを明確にするために子どもたちのつくった旋律をモデルとして取り上げた。そのモデルからリズムの変化を教師が価値付けたり、音の動きや形に着目させたりすることにより、子どもたちは見通しをもって活動に取り組むことができた。
- ペアで聴き合いながらつくらせたことにより、「どうすると面白い旋律になるだろうか」という学習課題を意識して即興的に旋律をつくることができた。

4 成果と課題

今年度も、音楽づくりを中心に研究を行った。昨年度、モデル提示が有効であることが分かったので、今年度は「どのようにモデルを提示したらよいか」や教師の価値付け方について研究を深められたことは大きな成果であった。

また、授業研究及び一人一授業研究において、授業構想カードを作成し、ねらいに正対したまとめ、まとめに正対した学習課題が設定できるように研修を進め、部員の授業力向上に努めた。来年度は、重点研究として今までの研究の成果をまとめていくとともに、音楽づくりの授業のさらなる充実を図っていきたい。